



毎月一回十五日發行（定價一部五錢一年郵稅共五十錢）

曉 鷄 聲

昭和の世も早や七年の春が明けた。
曉 鷄 聲
勅題の偶意奈邊にあるか、今迄眠れる日本は曉の鷄の聲に目醒めなければならぬ。
雄々しくも羽ばたきをして、一聲高く曉を告ぐる様は誠に頼母しき限りではないか、人々よ曉に起る鷄聲を聞いて夢を醒ませ、然して自覺せよ。
舊年の暮に起つた政變は我事業界にも大きなショックを與へた、株式といはず綿糸米穀といはず、相場は物凄く暴騰を演じた、金再禁止謳歌の熱狂人氣は株式市場では立會の中止を演じ、事業界では休機が動き出すといふ狂態である。
この景氣が金輸再禁止のためであるとするれば、圓貨低落より物價は上り輸出品生絲の値段の奔騰も必然的のものではある、然しながら世界的好況來にもあらず生絲のみの價値が上つたわけでもない、この相場は漸次訂正されるべきが来るに違ひない、かつてフーバー景氣を論じたと同じに、一つの警告を附加

へねばならぬ、瀕死の事業界に與へられた一本のカンフル注射が、徒らに病人を元氣つけたところで、豫後の経過を見守つて万全の策を採らぬ限りは往年の活力を恢復することはまた難いかなである。
舊年末に上つた烽火に眩惑せらるることなく、經濟界の本態を洞察し、邦家の現狀を見究めて各人が反省自覺しなければならぬ、ムッソリニの如き偉人の出でざる限り吾人の期待するところは何か物もない、只産業立國の實行によつて經濟的の進境を劃すべく新内閣に望むところのものがある、現時の難局に當り老政治家犬養氏の努力に期待するところ亦大であるが、一面皆これ吾人自らに期待しなければならぬのではないか。
滿洲の野には我が同胞が匪賊と戦ひ、零下三十度の酷寒と戦つてゐる、曉に響くラッパの音は農村に曉を告ぐる鷄の聲と同じだ、吾人はこれを聞いて國民的信念に目醒めなければならぬ。

編輯 森 山 二 郎
市田上縣野長
校學門專絲蠶田上同
會 町縣南市野長
社會式株聞新日每邊信

台灣の學術的價值

（其の二）

小林 貫一

臺北帝國大學に關する諸官制は昭和三年三月十七日を以て公布せられた。本大學は其の組織は綜合制であつて、主として人文科學並に自然科學の基礎たるべき學部のみを置いてゐる。即ち人文科學に在りては其の根柢たるべき文學科に配するに、之と密接の關係ある政治、經濟、法律に關する學科を以て文政學部となし、自然科學に在りては之が根柢たるべき理學科に配するに、之と密接の關係ある農學に關する學科を以て理農學部としたのである。
本大學は固より一般科學を研鑽するを目的と爲すのであるが特に東洋、南洋に關する特色を發揮するを必要としてゐる。かくして臺灣の地位と沿革とを審かにし、人文科學は特に東洋道徳を骨髄として、文明の顯微、開闢を勉め、自然科學は、熱帶亞熱帶に於ける特異の事象を講究するを以て本大學の使命としてゐる。従つて本大學の學部の

（署名大に二る成に手の窓同）
山本三六郎著
化學純絹絲の工業的完成
蠶絲業法規要論
市田上縣野長
會究研學科絲蠶 所行發
（振替長野6413番）

組織、講座の配置、教官の人選並に教授、指導等に關する諸般の方法及施設は、悉く上述の趣旨を以て設立されてゐる。
臺灣の植物は領臺前は大平、多數の英人（Willford, Sunincoe, Oldham, Hancock, Ford, Henry, Fortune, Gregory, Waters, Campbell, Playfair氏等）によつて採集された。然し臺灣の山地には蕃族が蟠居して入山が容易でなく、又山脚地方には猖獗なマラリヤがありたる爲めに殆ど海岸植物の採集に極限せられてゐた。領臺後東京帝國大學から牧野氏、大渡氏、三宅氏が第一に採集せられ、又田代氏、新家氏、本田氏、長澤氏、川上氏、横山氏、矢野氏等在臺の採集家の手により多數採集された。これらは東京帝國大學教授松村博士の手により研究調査せられ發表を見た。次で明治三十八年臺灣總督府内に有用植物調査會と云ふ調査機關が設置され、故川上農學士が主任となり幾多の助手によつて材料を採集し、早田理學博士が囑託されて研究に任じ、明治三十八年には村田、早田兩氏により臺灣植物誌の著が出来上つた。又一面蕃界の整理に伴ひ採集地域は擴大され、明治四十年には早田博士の筆になる臺灣高地植物誌が出来、歐米人から年久しく「Tera ignota（暗黒の地）」と云はれた臺灣島も漸く光明を發揮することになった。就中故小西林學士によつて採集せられたタ

roides Harata は早田博士により英國リンナー學士院に前世界の遺生物として發表され世の視聽を集めた。明治四十一年には幾多採集品の比較研究の必要上早田博士が歐米の携行し多數の新種を公にした。此等採集品の蒐集に力のあつた者は故川上氏故森氏、故中井氏、中原氏、佐々木氏、伊藤氏等を最とする。而してこれ等の調査の結果は早田博士の手で臺灣植物圖譜として十卷完結の豫定で公刊されたが經費緊縮の爲め第九卷を以て打ち切となつた。同圖說附録臺灣植物目録には顯花植物三〇一三種、隱花植物五四七種合計三五六〇種を載せてゐる。
臺灣の植物の分布 早田博士は臺灣植物圖譜第二卷出版當時二六六〇種の植物を Element によつて算出された。その結果は次の通りである。
臺灣特有系 四一二種一七%
日本系 八一二種三四%
南支那系 八二八種三四%
中央支那系 六八六種二八%
北支那系 二二〇種九%
ヒマラヤ系 一六〇種七%
印度平原系 六二二種二五%
馬來群島系 六三六種二六%
濠太利西系 一一六種五%
陸生の植物は或る特殊のもの以外は廣く海を越えて繁殖することは殆ど出来ないことである。それが海を隔てた甲乙兩地で同じ植物を見るからには、その昔兩地が連接してゐたことを證據立てるものである。臺灣の四角一

數字三四%であるのは同じ關係で、台灣海峡の陥没も琉球海床の切斷もあり年數に相違はないかと見られる。而してその共通種がある處から見て昔植物に移動のあつた事も想像せられる。即ち地質學上からは第三期に山獄、大洋を形成し、氣候の激變を來たし北半球の大部は氷山で覆はれ、植物は漸次南下した。唯歐羅巴は地中海のあつた爲め亞佛利加に渡れないで多數絶滅したことになる。台灣が日本と連絡した際は内地の高緯度の植物の或ものが台灣までも移り、それが更に高地に運ばれたものと想像し得られる。此の關係は支那でも同一で印度及印度支那との關係も同じである。台灣にアメリカElementのあるのも別に怪しむに足りない。要するに台灣植物區系は南支那と日本とに密接の關係があることが譯る。

近世までの台灣の博物界は Terra incognita (人跡未踏の地)であつた。然して日本領台後までも台灣に關して有する哺乳類、鳥類に關する智識は殆どロバート・スキーン・ホー氏に負ふ所であつた。台灣の哺乳類を見ると固有種が四割、南支那種が四割、緬甸南洋諸島、ヒマラヤ、日本(琉球を含む)の順位である。この事實は昔台灣は比律賓、日本と共に大陸の一部であつたのが、先づ比律賓琉球間が斷たれ、後に支那大陸との間の台灣海峡の陥没したことを示す。然して對岸沿海地方との關係が案外少いのは對岸地方の生存競争は台灣との共通種を絶滅させたのに拘らず台灣や南支の山地では安全にその後裔を残した事實を示すものである。尙内地との共通種は八種で中四種は世界的分布を有する鼠で之を除くと五%となる。之を要するに台灣の哺乳類は南支沿岸日本非比律賓等よりも南支の山地印度支那との關係が密であることが判る。鳥類は飛翔するので分布上趣を異にしてゐる。最も關係の深いのは矢張り南支で七〇%、南支那海の海南島と四五%關係のあるのも面白い。次は比律賓で、以下日本、琉球となり固有種は約二十%となる。固有種二〇%とは珍しく多數で多くは燕雀目の所謂留鳥に屬する。渡鳥はシベリヤ、カムチャツカ、濠洲、南洋、西藏等と往來するのである。

爬虫類中蛇類の記載は四五種ある。之を本州、四國、九州、沖繩の一三種、朝鮮一〇種、樺太の一種に比較すると如何に台灣産が多いかが判る。Elementに就て云ふと固有種が二〇種で南支共通が二七種、南洋共通が一三種、印度支那共通一四種、印度が一一種、ヒマラヤが六種、沖繩が一一種で内地との共通種は一つもない。就中毒蛇は海蛇を合せて一九種で陸棲中被害の多いものが五種ある。蛇類は五科十七種で固有種五種、南支種九種、印度支那種五種、印度種四種、沖繩種三種、内地中北支那種朝鮮種各二種、内地ヒマラヤ、濠洲、布哇各一種である。龜類は九種で海産を除くと五種、内沖繩種一種を除いては南支南洋種である。兩棲類は四科十九種で皆無尾類に屬してゐる。内固有種が一種、南洋種が一種、沖繩種が一種、南支種が一種、印度種が一種、ヒマラヤ種が一種、内地種が二種となつてゐる。魚類の分類調査は研究がまだ行届いてゐない。現在記録されてゐるものの中に日々吾人の食糧に上るものが多い。魚類の調査は中央動物研究所で研究せられて發表されてゐる。農林省の調査によれば、台灣に於て今日迄に記載された魚類は實に一萬五千種に達した。台灣の植物の数は三千六百種と云ふから、丁度台灣の昆蟲は植物一種類に對して四種の昆蟲の數になつてゐる。今植物の數の御参考の爲め本邦各地の植物數と一方里宛の種數とを比較を書いて見ると次の様である。

諸地に比して一定面積に種類が豊富であるかがわかるのである。台灣の昆蟲の分布も亦東洋區に屬し、この區は東印度、南洋區、支那、ビルマ、シヤム、馬來半島、ジャバ、ボルネオ、スマタラ、フィリッピン、台灣、琉球諸島等を抱擁してゐる。此の地球方角には美麗の鳳蝶及び斑蝶の種が多く、特に彼のオホゴマダラ類(Hesperia)の如き、或は印度及台灣に産するキシタアゲハ属(Trompeoplera)の如きは此の地方に固有のものである。既に述べたる如く、台灣の自然界は舊北洲區(Palaearctic region)と東洋區(Oriental region)との中間に位置し、或は熱帶産あり、或は溫帶産あり、或は寒帶産あり、抱擁してゐる。豊富な生物相を擁する。以上は唯自然科學の一部たる動物學的、植物學的、地質學的、地質學的、學術上台灣が過ぎない價値を有してゐる。この稿の諒解を得れば、それでこの稿の價値が足る。若し夫れ人文科學の價値が豊富なるに至つては、これに幾倍するかの如く、殆ど測知することが出来ないのである。(一九三二、一〇、二四)

三、歐米に於ける生物學研究の訪問雜感(一、二、三、四回) 四、食桑後に於ける溫度の昇降が蠶兒の食桑消化に及ぼす影響に就て 北澤 周一 五、畸形繭の成因(營養性)の研究(一) 山口定次郎 六、第三者製絲検査實施に就て 鷹野 誠一 七、フィブロインに就て 山本 賢一 八、繭の影響 野口新太郎 九、粘度に依るフィブロインの研究 北澤 孝一 十、蠶兒の吐絲管の大きさに就て 金澤 勇 二、速記術に就て 須田 圭二 リッビ氏腺の形態的觀察 永井 覺 三、物質の消滅に就て 原田 親雄 四、煙草被害桑葉中に含有する有毒物質 三輪 貞徳 五、二つの行き方(人生觀) 高瀬 毅一 六、本邦人造絹絲の現況 加美 好男 七、桑葉の萎凋程度と蠶兒の發育との關係 宮坂 收 八、人造絹絲の強伸力關係 加美 好男 九、比色による簡單なる濕度の觀測法 金澤 勇 一〇、信州に於ける女工募集の現況 坂本 孝子 二、生絲の強伸力に就て 窪田 潤 三、デイーゼル、エンヂンの話 森山 二郎 四、サスペンションの凝固 金子 英雄 五、動力學に就て 金澤 俊興 六、マルビギー氏管の排泄作用に就て 蒲生 俊興 七、銀河の彼方(Beyond the Milky Way) 原田 親雄

談話會報告 山口 定次郎 六年度第二學期談話會の報告をします。 談話會回数 一〇回 講演者數 二八 出席者數 二八 演題及講師は左の通りであります。 一、太陽黑點と氣温との關係 志田 敬夫 二、昆蟲の營養に及ぼす食餌の影響 尾藤 省三

祝詞

の年月は流れました先生の頭にも白髪が大變増えました私共は

あります又先生の御祖父様も御
兩親様も御長命で御座いました
から先生も亦必ず御長命であら
ふと思ひます職員が同窓生諸君
と共に更に古稀米壽の賀筵を催



先生に御會ひする度に何時も痛々しい様な感じと申請のない様な氣が致します。けれども先生は益々御元氣で年々高山を跋涉せられ壯者もなほ及ばざる程で

ふす思ひを今日此席に列せる一同が等しく胸に浮べて居る事と思ひます。

なりません社會の進運に伴ふて今後我校の内容を改善充實すべき點も多々ある様に思はれます本校の前途益々多望にして先生の御力に待つべきものが澤山あります先生に於かれましたは一層御健康と御保養とに御注意なされまして百歳の壽を保ち永く盡力せらるる充實發展のために御居りませう私共職員一同も先生の徳にあやかつて氣分を一新し先生ご一心同体となつて及ばずながら努力奮闘して永年御引立下さいました御恩の万一を酬ひたいと思ひます今日は大空も朗かに晴れました御長壽と我校の前途を祝福して居る様に思はれます私は淺學菲才で代表の器ではありませんが上席の故を以て敢て職員一同に代つて賀辭を申上げ先生の萬歳を御祈り致します。

昭和六年十一月二十二日

職員代表
阿形輝司

蠶絲科學講演會出席者

蠶絲綉

一一人
五四

三六

七三

六三〇

六二〇

三—

一九五三

05

五
六

$$0 =$$

二〇七八

十六

二四

五十四

七
二五
五十八
十

三百四十三人

五百四十八人

臺灣への初旅
(其の三)

平田清親

【桃園】臺北より七哩桃園郡役所の所在地であつて蕃境視察に好適地なる。

「角板山」は桃園軌道會社の自動車又は臺車により（片道五錢）大溪街（三里三〇町郡役所々在地）に至り、更に五里三〇町臺車（一圓六〇錢）に搭し五時間にして達するのである。角板山は番地開發の基本であつて一千四百尺の臺地を爲し極めて幽閑枕頭山、插天山は其前後に聳へ大壠嵌溪の源流は數百仞の眼下に絲の如く細く圍繞して流れて居るこの畫幅の間を蕃人が去來するさまは眞に大古其儘である。嘗て秩父宮。高松宮。朝香宮。近くは東伏見宮妃殿下の御成になつた所で貴賓館、教育所（蕃童を教育する所即ち内地の小學校に最適す）物品交換所等がある。「水流東三井製茶工場」大溪より角板山への途中約三里の所にある。大正十五年工費二十一萬圓を投じたる建造にかゝり、建坪五〇〇坪最新式の機械であつて一日の製茶能力二萬五千斤、昭和三年に烏龍茶及び紅茶約四〇萬斤を製造して居る。

【新竹】臺北を距る四九哩約二時
間新竹州廳の所在地であつて人
口約三萬七千北部に於ける、樞
要市街である停車場の西南約二
十三町牛埔山に北白川宮殿下が
露營を張られたる御遺跡がある
車中より之を拜することを得。
【苗栗】竹南より分岐したる台中

線に在り(竹南驛にて台中線と海岸線に分岐し更に南王田に至りて連絡す目下小生の居住地清水街は海岸線清水驛附近一帯にして大甲郡役所の所在地なり同地より台中市へは汽車自動車至便にして約一時間にて達し得)街は停車場より約二十町郡役所の所在地、この驛下車の要は日本石油株式會社台灣礦業所の石油抗視察の爲である台車約十二三哩にして出礦坑に着く、後瀧溪の右岸に聳ゆる山嶽が即ち石油坑區である。已に二十有餘の坑井を鑿ちたるが其最も產出油量の多きは十八號である、尙現に試掘のもの多く將來採油の多量期として待つべきものがある。

【臺中】臺北より百五哩台灣の中央部であつて、人口約四萬四千台中州廳の所在地である市街は内地式洋式の建物多く帝國製糖株式會社(驛の東五町)青果會社、芭蕉檢査所がある附近は平坦且つ肥沃の田野であつて、台灣主要の米產地で又全島的に芭蕉市場として有名である。

【台中公園】市の東端にあり明治三十五年初めて之を造り、更に四十一年に規模を擴大し泉水を穿ち休憩所を設け面目を一新した園内に台中神社がある。公園としては台灣に於ける雄なるものである。

【芭蕉市場】芭蕉の生産は台中州下が台灣に於て第一で高雄が其の次である、台中驛裏手にあつて開市日には山積された芭蕉實が夫々の等級に分たれ、機敏に

造荷されて内地及び島内に輸送されるのである。

【二水】臺北より一三七哩集々線の分岐驛で、新高山、日月潭、霧社に行くには此處で乗換へるのである。

【新高山】諸君の御承知の如く海拔一萬三千七十五尺本邦第一の高峯であつて集々線水裡坑驛が其の登山の入口である、新高郡役所(集々庄)の入蕃許可證は所持すべきである。

【日月潭】新高郡魚池庄にある二水驛より、集々線の終點外車程に降り更に五城迄台車にて一時間半、五城より徒歩約二時間にして湖畔水社に着くのである、日輪の形の日潭と月輪の形の月潭とが相接して所謂日月潭を成すのであつて海拔二千四百尺水社大山、大尖山等の山々に圍まれた風光明媚なる台灣第一の湖水であつて八景の一である。湖邊に獨木船を浮べて漁りして居る原始の姿は太古其まゝの景である。湖の東岸に約三十の蕃家が隱見する蕃人の杵歌はこの地の名物であつて之を所望すると二十人餘りの婦女が集つて長短各種の杵で庭先にある臼の様な石を打ちながら、いとも哀調を帯びた聲を張り上げて節面白く唄ふ杵の音は谷間にこだまして唄の聲と共に湖面に流れ込むものである月の夜湖邊に佇むて之を聞く時何とも云へぬ一種の神秘を感じ吾仙境にあるの思ひをなす。

(次號に續く)

謹賀新年 松本市外神田 水城 孝勇	謹賀新年 宮城縣亘理蠶業學校 近藤 正己	謹賀新年 石原 石司 滋賀縣蠶糸課	謹賀新年 宮城縣伊具農蠶學校 細川 護	喪中に付年賀缺禮 長野縣蠶業試驗場松 本支場 上林 多兵惠	謹賀新年 京都府加佐郡中筋村 郡是舞鶴工場 太田 良信	謹賀新年 長野縣九子農商學校 浦山 藤吉	謹賀新年 長野縣東筑摩農學校 片岡 清治郎 住所 同縣東筑摩郡塩尻町大門
謹賀新年 農林省蠶業課 原田 兵衛	謹賀新年 岩手縣蠶業取締所 一ノ關支所 荻原 幸胤	謹賀新年 水戸農學校 原田 種龜	謹賀新年 水戸農學校 橋本 廣	謹賀新年 大邱府外 原蠶種製造所 北澤 茂	謹賀新年 朝鮮平安道原蠶種 製造所 内田 憲治 (朝鮮平壤府)	謹賀新年 松本市農林省蠶業試 驗場松本出張所 淺野 清志	謹賀新年 長崎縣廳 坂田 榮雄
謹賀新年 帝國人造絹絲株式會 社廣島工場 林部 源三郎 (自宅 廣島市南竹屋町二四〇)	謹賀新年 長野縣蠶業取締所飯 田支所 永田 平	謹賀新年 横濱市中區本町四 時澤商店内 伊藤 競	謹賀新年 鹿兒島縣立伊佐農林 學校 櫻井 吉利	謹賀新年 兵庫縣城崎郡日高町 郡是製絲江原工場 和田 虎三	謹賀新年 朝鮮忠清北道清州 蠶業取締所 櫻林 幸雄	謹賀新年 鹿兒島高等農林學校 木脇 寅熊	謹賀新年 埼玉縣立熊谷農學校 齋藤 格次

京都 (第四回)

確 氷

金の輸出再禁止が行はれた。そのためこの不景気に数千萬圓儲けたものがあるさうだ。勿論サリーマンやプロには倒になつたつて出来やしない。夢にでも見る位が關の山だが、こちではその夢さへ見る事が出来ぬ。

近頃やたらに物價が騰る。俺のやうな安月給取は物價のあがるたびに苦しくなる。物價の高いつて月給も割合に高いから、少し位は物價が騰貴してもへたれぬだらうと時々考へる。

金輸出再禁止が行はれたからつて、いつたい景氣がよくなるかい？ あやしいものだ。問題は世界の景氣だ。世界の景氣がよくならぬ限り、金の輸出再禁止を一千回やつたつて景氣が出て来るものか。最近のアメリカの景氣を見る。黄金の國を以て自ら任じてゐたアメリカが金本位制を停止しなければならぬ状態に立ち至つてゐるぢやないか。

そういふわけだ。寒さがひどいが体の工合はどうだ。

N氏へ——
どうです僕はもう。京都を去つてから二冬を東京で送ることになります。
是非一度京都へ行つて見たい

と思つてゐますか、どうも行くだけの餘裕がないので出て行かれません。あなたは叡山の下、あのゆるやかな山の懷に抱かれて眠つてゐるやうな新築の家に、いつものやうに平和な生活をしてゐられるだらうと思ひます。御勉強の方は噂によりますます大變進行してゐるこのことですが、さうした勉強に全く門外漢な僕は、ただそのやうな噂を聞くのみですが、それにしてもさうした噂を聞くことは嬉しいことです。

時々Uが京都へ行くさうですが、お逢ひの際には多分僕の悪口が出るだらうと思ひますが、Uも随分口の悪い男ですから餘程割引して聞いて下さい。

この頃東京へはチラチラ雪が舞ひました。最近井のポンプへ水が張つて、工合の悪いのは水が出なかつたさうです。京都はさうです。京都といふところは随分寒いところでした。殊に叡山から吹き下す風と來たら、痛いはづつめたい風でした。僕は雪のチラチラする日にはきまつた様に京都の雪を思ひ出します。殊に同じ京都へ雪が降る場合でも、京都驛のあたりでは全然雪の姿を見ないのに、大興のあたりから三條のあたり迄雪に見舞はれてゐるのを幾度でも経験しましたが、そのやうな京都ならでは見られぬ雪の姿まで思ひ出してゐます。

いまごろは圃場へ蒔いた研究用の燕麥が餘程成長してゐることでせう。それが成長して實を結ぶ頃になると。あなたは又例の麥稈帽子をかむつて圃場へ出て鉢とビンセットで授精をされることでせう。

そのうちに是非一度京都に行き度いと思つてゐます。近々のうちに東京へ出て来るやうなことはありませんか。來たら是非寄つて下さい。銀座位は御案内しますよ。勿論、相變らずビービーしてゐますので、ただ御案内だけです。

Fちゃんへ——

手紙拜見。さうだね。又正月が来るね。勿論僕だつて年の暮の氣分も起きなければ正月の氣分も起きないよ。でも年の暮とか正月とかいふと何だかそこに一線引かれてゐるやうにも考へることが折々ある。勿論それは慣習と傳統に禍されてゐる結果だらうが。そんなことは兎に角、Fちゃんがこの正月は東京へ來ることを楽しみにしてゐたのに、愈々來ないといふことになる。少なからず悲感するわけだ。僕のやうに異性に恵まれぬ男は、たとひそれがどんな種類の異性であつても異性が尋ねて來て呉れるといふことだけでどんなに嬉しいか知れない。ましてFちゃんのような女性であつて見ればね。さうだね。思ひ切つてやつて來ないか。僕も金がありさへすれば送つてあげるが、いまのところ全くどうにもならぬ。年賀状さへ書く餘裕を持たぬ状態だからね。

あんな京都の正月のやうな張合のない正月をしたところであらうないぢやないかね。京都の人間と來たら正月が來ると家にばかり引つ込んでゐて年始廻り一つしないぢやないかね。勿論年始廻りのやうなやばくさいことを今更した方がいゝなさいといふのぢやないが、兎に角京都は活氣がなく、少くとも僕は京都人の氣分は大嫌ひだ。そこで僕の心配してゐるのはFちゃんだ。活氣に富んだ女性Fちゃんに京都女のやうな間のぬけた女性になつて了ひやせぬかと考へる心配だよ。

時たま東京へ出て來て東京のグルグル動いてゐる氣分に接することは、少くともFちゃんには必要だと僕は考へる。

勿論、鴨川の川原の黄色い月見草にキッスすることもよからう。東山の墨繪姿の美しさに恍惚とすることもよからう。だけれども、僕のFちゃんに要求するところは、そんな安價なセンチメンタル的陶醉ぢやない。少くとも時代は動いてゐる。Fちゃんも時代のいふやうに動いてゐる。その動いてゐる時代に相應しい女性を建設することだ。Fちゃん自らが安價なセンチメンタルズを清算することだ。Fちゃんから、Fちゃん自身の持つてゐる野性をより多く發揮させることだ。

僕はFちゃんが益々いゝゆる京都式女性に轉向して、お上品な女性に建設されてゐるだらうと思ふとたまらない。兎に角都合をして一度東京へ出て來ないか。僕がFちゃんへのは話は一週間や二週間ではしつくないほど持つてゐるやうに思はれる。

風を引いちや駄目だよ。元氣でゐること。
(一九三二、一二、一八)

學校だより

Y K

筆者は兎角無精でいつでもこの報告を一度に書めて置いては書いて來たが此の切羽詰まつた年の暮に柄にも無く病氣をしたために原稿の調査が切羽詰つた間に合はなくなつて了つた。

其所で實際問題として已むなく十一月十二月をひと括るめにして端折つて御報告をしなければならなくなつたことをお詫言する。

十月初旬母校辯論部委員七八名が南信の學校工場を講演して廻り各地の同窓に大變御厄介になつた、其の報告を爲し忘れた所委員から特に注意があつたから後ればせ乍ら御報告をし謹んで御好意を感謝する、夫れはさておいて此頃某同窓の消息に依ると其の辯論は不幸にして大して成功して居なかつた、大倉高商や京都文學辯論部等の遊説後であつたからでもあらうが辯論をきいた中等學校の學生より未だ不味かつたとはちと手痛い酷評と思ふが他山の石迄に其儘を書いて見た。

十一月一日に上田市營グラウンドで上田小蠶、市青年團及び母校四組の陸上競技があつて蠶専は壓倒的な得點を以て斷然他の三者をリードし、市長杯を獲得した(母校三九、上田二五、小蠶一二、青年一〇)。
明治神宮の競技大會に剣道部から母校を代表して町野殿氏(蠶三)が出席し、長野縣代表として母校ビンボン部から梶田陸氏(蠶三)が出席した、第一回戦で二者とも敗退したが善戦よく力め伎倆のある所だけは充分認められた。
運動デ－には全校挙つて九子射撃場に於て射撃が行はれた、職員最高點三十六

點の殊勳者は紡績の森山教授で、澤山回轉して居る紡績中切斷によつて止まつた鐘を瞬時に發見するあの力がうまく的に當つたためだと云ふ評判だ、澤山の豫備將校はあるが何れも顔色無しである。

二つの有益な科外講演が母校講堂に於て行はれた、一は「滿蒙の事情」と題し貴族院議員赤池漢氏により、一は「世界不況と我が國民の覺悟」と題し帝大教授土方成義博士に依るものである、赤池氏は上田から約一里北した埴科郡南條村の御出身で今回貴族院議員として現地を具に視察せられた其のマザ／＼と生きた觀察談であり、土方博士は最近歐米の視察を終つた許りの新歸朝者で世界經濟動搖の目撃者であり何れも時局重大な問題に對し相當深い認識を與へられたことを感謝した。

十一月廿二日の午前は上田市公會堂に於て本會々員並に賛助員（現教職員）より成る針線先生の還禮祝賀會午後一時より母校堂に於て第五回代議員會廿三日、廿四日は講演會が開催された、廿四日は休日では無かつたが特に學生にも聴講させる意味で學業は一日休校となつた、講堂のシャンデリア、暖房裝置等は未だ完成して居なかつたが母校當局の好意によつて急遽間に合はせて貰つた、一日の照明料金拾五圓である、此等もみな母校の好意になるものである。

講演者の説によると講堂の大いさと云ひ反響と云ひ照明と云ひ頗る恰好の出来榮えて大變に話し良いとのことである、之は必ずしもシャンデリア代の禮と云ふばかりでは無いのだ。

之が終つて間も無く査閱があつた、師團から仙波少將と横田中佐が來校され半日査閱、終つて滿洲問題に對し講演された、査閱の成績に就いては邊開き洩らしたたが昨年比して週に良かつたと云ふことだけは斷言出来る、新軍事教官の理解ある教練に對しては學生は全市の誠意を披瀝して演習を行らうと口癖に言ふて居るのを聞いて居るから一昨年の講評を内密に御披露すると「良いと噂ある母校と悪いと噂ある松高との各々の成績は案外だつた」と査閱副官が側近に洩らしたと云ふことである。

十二月に入つて校内にストーブが配置された、本年の晩秋の上田の氣候は珍らしい暖かさと云ふてよろしい、うららかな小春日和が續いて小さな火鉢で足りた世界もストーブが出て來ると急に冬の前奏曲かと思はれて周囲の風物がとりわけシニミリとしてくる。

掲示板に貼り出された試験の發表によると諸義は十五日火曜迄それから二日休んで十八日から廿四日迄試験とある、十日頃から厚い朴樹の下駄を曳きつて市内を歩き廻つた學生も漸々少くなり金の無い時と同じやうな屈託顔の湯歸へりが足どりも急がしく下宿をさして歸つて行く、それでもリツクサツクやスキを机邊に列べ時々之を愛撫してはノートに眼を移して居る所が如何にも學生らしい。

緊縮整理の暴風は母校文を桃源境には殘してくれない、矢張り人員の整理は一割だと云ふ噂が立つ、そして趣旨として高給受恩給者であるから少くとも恩給にならぬあたりは首筋には保證がありそうだ、誰も廢め得られないけふ此頃の霜枯れに是非廢めねばならぬ宿命的な必然性が一次鐵槌として將に下らんとする直前其所に憂鬱な呻吟の生まるるのは無理も無いことであらう、今學校は張りつめられた氷の様な静けさではあるが其の下積みには硬直した動きのとれない生活魔がまじしらの如く軋しつて走る音が聞こえて此のヒューネラルソングを如何ともすることが出来ぬ、吾々は此の國家的な犧牲者に對し國士の禮を捧げなければならぬと熟々思ふものである。

校友會雜誌第二十二號が十二月十五日呱々の聲を揚げて歲末の机邊に簡潔な姿を現はした、雅趣に富んだ水色の表紙、優美なゴシックのタイトルと天地の配置等清楚として拘すべきものがある、寫眞板にして針線先生の近影と先生の近影「蘭」の色紙が掲げられ且つ學生のものした先生の御遺墨を添へて十一文字が四五首飾られてある、針線先生の書に就いては天下定評のある所であるが諸の筆蹟に至つては誰も知るものがなかつたらう恐らく之が公表された最初の處女作では無いかと思はれるが書跡を追ふて天下に名を展ぶるも遠くはあまい。

二百頁近くの此小冊子をバラ／＼とくつて見る其の装釘の瀟灑たる所編輯の巧妙さ等昔のブツキラボに比らべると實に隔世の感がある、一號から二十二號迄比べて比較検討したら面白と思ふ、然し此種雜誌の墮し易い弊とも云ふべき重文藝的な香も多分にあつて惜しい氣がする、もつと論議があつて欲しい、確固たる考證の上に樹つ論議こそ學生間の讀書研究の深度を示す證と云へるだらう、二三ある論說中製絲三年宮下幸三氏の「蠶絲學雜誌に於ける石川氏稿」商品としての生絲の性質を讀む」と題する論文は内容は別として吾等に關係を有つことでもあり且つ其研究心には全市の敬意を拂はなくてはならない。

因に文藝部委員長は遠藤教授、同窓の委員は山口、萩原、野口の三氏である、何れ各支部へ一冊づつ御送附申上げる豫定で居る。

學校だよりも之を以て一九三一年の終末を送ることとした、顧ると同窓各位が母校の現狀に就いて知らんと欲して居たことの要諦に觸れたか如何かを疑ひ甚だ性根たらざるを得ない、實は本欄に對してもつと草々の注文があつて然るべきものと思ふが何の反響もないと果して感興有をつて居て呉れるか如何かの疑念も出て來ていさゝか心細くなる、勿論書けないことだつてはあるが！

多大な關心を以て終始激勵していただいた高島秀男氏に感謝をささげて御筆する。

（二一・一五日夜V.K.）

編輯室より

明けましてお芽出度うござい
ます。

本年も亦相變らず御援助願ひ
ます。

原稿をだんだん豊富に頂戴す
ることが出来るやうになりまし
て有難く存じます、尚この上共
御意見や御研究をお漏らし下さ
います様御願ひ致します。

森山 二郎

野口新太郎

北原 基

追而、時報は本會より會員全
部へお送りして居ります、皆様
の時報として遠慮なく御利用下
さい、そして偶から偶までお目
を通して下さい。

住所の移動及訂正

（十二月申）

- 小見益男 蠶三 中國蠶絲社氣付（上海乍浦路十六號）
- 安孫子文彌 蠶三 大連農事株式會社（大連市隆慶町一五七）
- 佐藤久太郎 蠶三 昭和六年十二月十三日死亡
- 菅野三郎 蠶十 東京府立高等家政女學校東京府下中野町
- 桑原四右衛門 蠶六 農林省蠶業試驗場福島出張所（福島市腰ノ濱）
- 本間國夫 蠶七 天華家庭（横須賀市佐野町二七五）
- 倉澤二三 蠶七 片倉製絲紡績株式會社蠶業試驗所（松本市群馬縣新田郡生品村大字小金井）
- 橋本 博 蠶七

弔慰金募集廣告

本會々員佐藤久太郎（蠶三）豫而御病氣の處養生不相叶十二月十三日遂に御逝去被致候間此段本紙上を以て及御通知候也

追而有志弔慰金は來る一月末日迄に取纏め遺族へ贈呈可致候間便宜上振替口座東京第四三三一番へ（佐藤氏弔慰金の旨御明記の上）御拂込被下度候

昭和六年十二月

上田蠶絲專門學校同窓會

尚々栗原茂君、上田忠景君、弔慰金は未だ受付申候

- 宮城俊雄 蠶七 上田市常田町兜三
- 瀧口 昇 蠶七 靜岡縣駿東郡高根村山之尻
- 水野健吉 蠶三 三井物産株式會社濱濱支店（横濱市中區日本大通）
- 關口三郎 蠶七 半田製絲研究所（横濱市太田町十五五）
- 清水逸五郎 蠶八 石橋商店（横濱市中區北仲通五丁目五五）
- 是石春男 蠶四 昭榮製絲株式會社一ノ關工場（岩手縣西磐井郡一ノ關町）
- 馬場長市 蠶六 昭榮製絲株式會社濱濱支店（横濱市中區本町五丁目四九帝國ビル）
- 長野忠顯 蠶七 熊本市大江町六〇五
- 矢嶋隆之助 蠶七 昭榮製絲株式會社（長野縣諏訪郡下諏訪町）
- 飯濱 榮 蠶六 新設部製絲株式會社（京都府綾部町）
- 宮西靈二 紡七 中宮商店（大阪市西區西道頓堀通四丁目十番地沙見橋北詰）